

【p 68～ p 71】 おじいちゃんのふえ ―三木市 小林のししまい―

1 資料活用にあたって

- 本資料は、粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力の大切さに気付くひろしの姿を描いたものである。ひろしとおじいちゃんの関係の変化を読みとらせる資料ではないので、家族愛の内容で取り扱うのは適切ではない。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ひろし（子どもがひろしになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：おじいちゃんの「だれでもさいしょはへたくそや。そやけどむずかしいきょくもみんなでふくと楽しかったで。」という言葉
- 変化したところは：「ぼくもじょうずにふきたいねん。」

3 読み物資料の素材について

【参考資料等】

- ・ 三木市伝統文化こども教室

【参考URL】

- ・ 三木市教育委員会 教育総務部文化・スポーツ課

<http://www2.city.miki.lg.jp/miki.nsf/39f1c87d0d44690349256b000025811d/3ca478c9086094944925714d00259ae6?OpenDocument>

○ 三木市小林の獅子舞について

- ・ 三木市に存在する多数の神社には、それぞれの地域の人の願いから生まれた、奉納の屋台や獅子舞などの伝統文化が存在する。多数の氏子が存在し、かかわっている人の多い三木祭りなどでは、それにまつわる伝統芸能は今も盛んである。しかし、地域に伝わる伝統文化の中には、次代の担い手が少なく、どんどん消えていっているものも多い。獅子舞の鳴り物の楽曲でも横笛など習得が難しいものは、伝える人がいないまま忘れ去られていっている。昔は、もっと多くの曲が存在したが、現在では数曲が残っているのみである。次代を担う子どもたちを育てていくことが伝統文化を残していくためには必要である。
- ・ 三木市では、小林などいくつかの地区において、話し合いが持たれ、小・中学生を集めて、その文化を受けついでいってもらおうという活動を行っている。
- ・ 小林地区では、現在地区の公民館で週1回、夜に練習を行っている。幼稚園や1年生に横笛を持たせると、吹きたいと思っても音が出るまでにはかなり時間がかかる。ましてや曲を吹くとなると大変である。しかし、祖父や地域の大人、そして、中学生と一緒に練習するうちに少しずつ上手になっていく。

4 展開の具体例

おじいちゃんのふえ ―三木市 小林のししまい―

- ・主 題 名 ・あきらめない心 A (5)
- ・資料の概要 ・祭りの出し物である獅子舞の鳴り物の練習に参加しているひろしは、横笛が上手に吹けずにおちこんでいた。ある日、祖父が子どもの頃、同じように横笛を練習しており、今も上手に吹くことがわかる。祖父と共に練習しはじめたひろしは、努力することの充実感を味わい、祭りに参加する意欲を高める。
- ・ね ら い ・おじいちゃんとのふえの練習で道徳的に変化するひろしを通して、何事にも粘り強く努力しようとする道徳的実践意欲を育てる。

・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	お祭りに行ったことがありますか。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。	
	・公民館から出てきた時の主人公の気持ちを考える。	一人で公民館から出てきた時、ひろしはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・お兄さんたちのように上手に吹けないな。 ・練習しているのにできずにくやしいな。 ・お祭りに出るのはやめようかな。
	・家で練習しながら、泣きそうになっている主人公の気持ちを考える。	家で練習を始めたが、いい音が出せず、泣きそうになっているひろしは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ああ、やっぱりだめだ。 ・どうしても上手く吹けないよ。 ・お祭りに出るのはあきらめよう。
	・おじいちゃんと一緒に練習したいと思うようになった主人公の気持ちを考える。	おじいちゃんと練習している時、ひろしはどんな気持ちになったのでしょうか。 ・おじいちゃんが一緒にふいてくれて心強い。 ・おじいちゃんのおかげで、うまくふけてうれしい。 ・上手になって、楽しくなってきた。 ・楽しくなってきたから、もっと練習しよう。 ・もっと練習して上手になる。
	・ぎゅっと笛をにぎりしめている時の主人公の気持ちを考える。	笛をぎゅっとにぎりしめたひろしは、どのようなことを考えているのでしょうか。 ・あきらめずにおじいちゃんと練習してよかった。 ・もっと練習しておじいちゃんのように上手になるよ。 ・お祭りではがんばるから、おじいちゃん見に来てね。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

笛を上手に吹けるようにがんばろうという気持ちはあるが、うまくできずに気落ちしている主人公の心に共感させる。

どうしても笛を上手に吹けずに落ち込み、向上心を持って努力する気持ちが弱くなっていることをおさえる。

おじいちゃんの話がきっかけとなり、向上心を持って努力する意識が主人公に起こっていることをおさえる。

笛の上達をおじいちゃんに認められ、向上心を持って努力する意識が高まり、主人公が「もっと上手になるぞ」という実践意欲を強めていることをおさえる。